



勝山の学舎

前橋市立勝山小学校
学校通信
第17号
平成31年3月22日

ご卒業おめでとうございます!自分らしさを大切に!

3月22日(金)に、多くのご来賓の皆様、地域の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと第43回の卒業式を挙行し、73名の卒業生が巣立ちました。伝統ある勝山小学校で6年間を過ごし、仲間と共に沢山の経験をし、沢山のことを感じ考え、人として生きて行く上で大切なことを学び、立派に成長しました。

皆さんの力は「unlimited」、『無限大』です。自分を信じ、目標に向かって、力強く一歩ずつ歩んでください。時には、辛いこともあることと思います。しかし、皆さんは決して一人ではありません。共に悩み、支えてくれる素晴らしい仲間がいます。「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」、『一人はみんなのために、みんなは一人のために』の気持ちを大切に、仲間と共に成長して行ってください。どんなに苦しいことがあっても「スマイルファイト!」、『いつでも笑顔を忘れずに、強い気持ちでチャレンジする』ことを心に刻み、前進して行ってください。先生方はいつでも皆さんのことを応援しています。



皆さんの前途が幸多きものであることを願っています。本当に、おめでとうございます!

「贈る言葉」式辞より!

この六年間の一人一人の心に刻まれた、数々の思い出は、中学生になっても、皆さんの心の支えとなるはずです。自信を持って、力強く前進し、活躍することを期待しています。

ここで、新たな世界に羽ばたいていく皆さんに、一つの詩を紹介したいと思います。

みなさんは、星野富弘さんという人をご存じでしょうか。星野さんは、群馬大学を卒業後、中学校の体育の教師として部活動の指導中、不慮の事故により重度の障がいを負いました。首から下が全く動かなくなってしまったのです。

しかし、星野さんは、その絶望の淵から、口に筆をくわえて絵と詩を描くことに生きる喜びと希望を見だし、すばらしい作品を生みだしています。その星野さんの作品に「すいせん」という詩があります。その詩を紹介します。

「幸せという花があるとすれば その花の 蕾のようなものだろうか
辛いという字がある もう少しで 幸せに なれそうな気がする」

周りの人々の支えにより、絶望の淵から這い上がり、苦難を乗り越え、生きる喜びを再び得た星野さんの言葉だからこそ、心に響くものがあります。「辛い」という漢字と「幸せ」という漢字は、とてもよく似ています。「辛い」という漢字に、横画をたった一本加えるだけで「幸せ」という漢字になるのです。みなさんは、これからも、いくつかの辛いことに会うことでしょう。その時、「辛い」、「苦しい」と諦めず、もう一画分、頑張る努力をしてみてください。「辛い」という気持ちのまま終わってしまうか、あと一歩の努力をして「幸せ」をつかみとるか、それを決めるのは、みなさん自身の心です。

それともう一つ、大事なことがあります。それは、人間は決して一人ではないということです。わたしたちは、お互いに支え合って生きています。もし辛くて倒れそうな人がいたら、あなたがその人の「幸せ」の一本の横画になって、支えてあげてほしいのです。自分自身精一杯努力をするとともに、苦しみ悩んでいる人を支えられる、優しい人になってほしいと願っています。

式辞一部抜粋

「6年生を送る会」 お世話になった6年生への感謝の気持ちを込めて！



3月5日（火）に、「6年生を送る会」を実施しました。全ての学年が、お世話になった6年生への感謝の気持ちを表すために、「6年生に懐かしいと思ってほしい」「6年生に楽しんでほしい」という思いで内容を工夫し、事前に練習を重ね、心のこもった出し物を披露してくれました。

どの学年の子ども達も、6年生への感謝の気持ちを伝えたいという気持ちが伝わってくる立派な態度で、それぞれの役で頑張る姿を見せてくれました。6年生の心にも響き、目頭を熱くしている6年生の様子に、温かい気持ちにさせられるとともに、感動をもらいました。本当に、素晴らしい勝山の子ども達です。

こんなに温かい気持ちにさせられる6年生を送る会にできたのも、今年一年間、最上級生として、時には悩み、うまくいかない時もあったであろう中、「良き見本として、勝山のリーダーとして頑張るぞ」という気持ちで、仲間を大切にする姿、最後まで諦めずにやり通す姿、しっかりとした挨拶・返事、下級生を気遣い大切に接する姿等を見せてくれた、6年生の頑張りがあったからこそです。勝山小学校をよりよい学校にするために、最上級生として頑張ってくれた6年生の皆さん。本当にありがとう！皆さんが築いてくれた良き伝統は、必ず在校生が引き継ぎ、より一層「居心地の良い、互いに成長し合える」学校を作っていくことになることと思います。

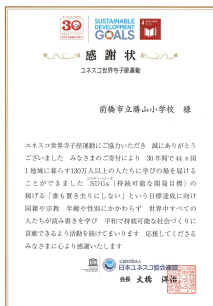
「卒業式準備」 感謝の気持ちを込めて会場づくりを頑張ってくれました！

3月20日（水）の午後に、4、5年生が6年生が気持ちよく卒業式を迎えてほしいという気持ちで、卒業式の式場等の準備をしてくれました。どの子ども達も進んで仕事を見付け、体育館の式場を中心に、机や椅子を並べたり、汚れているところをきれいに掃除したり、本当に一生懸命に準備をしてくれました。これまで多くの行事の会場等の準備では、6年生（卒業生）が中心となって行ってくれていました。「単に準備の作業をしていただくだけではないのです。皆さんが、準備をしてくれたことで、みんなが行事ができたり、片付けをしてくれたことで、体育館が使えるようになり、体育の授業ができるようになります。みんながしてくれたことは、多くの人の役にたっているのです。



単に準備をしたではなく、自分のしたことが人の役にたっているんだ、ということをお話しました。今回は4、5年生の皆さんが準備をしてくれました。単に準備をした、ではなく皆さんのしてくれたことは大勢の人の役にたっているのです。本当にありがとうございました。卒業生の皆さんも心から喜んでいることと思います。

「書き損じ葉書への協力」 一人一人の力は僅かでも、みんなの力が集まれば！



「書き損じ葉書」を集めたところ、沢山の皆さんが協力をしてくれました。本当にありがとうございました。その結果、日本ユネスコ協会連盟より、「感謝状」をいただきました。皆さんが、協力してくれた書き損じ葉書が、世界の人々の役にたっているのです。一人では数枚程度の葉書しか協力できず、世界の人々の役に立つことはできないかもしれません。

しかし、みんなの力が集まると、世界の人々の役に立つ、大きな力となっていきます。今回、感謝状をいただいたことをきっかけに、今後も様々な面で、みんなで力を合わせれば、一人の力ではできないことも、できると信じ、みんなで力を合わせて様々なことにチャレンジしていきましょう！

「ご卒業おめでとうございます!心よりお祝い申し上げます。」

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。子ども達は今年一年間、最上級生として、リーダーとして、この勝山小学校を引っ張り、本当によく頑張ってくれました。本当に気持ちの良い子ども達でした。中学校でもそれぞれに力を発揮し、活躍してくれることと思います。

本日まで、本校の教育に対しましてご理解ご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。ぜひ、今後とも勝山地区の子ども達を様々な面からご支援いただければ幸いです。

